

機部
工本
業営
村営
木大

工場・ビル空調需要に独自技術で対応

水とHP
活用した

自然派H G空調提案を強化



登尾 公彦 本部長

業務用・産業用空調システムメーカーの木村工業（社長＝木村晃氏、本社・大阪市中央区上本町西5-3-15）の営業体制は東京、大阪、愛知の主要3都市に営業本部を構え、その他5都市に営

業拠点を置く。うち大阪営業本部（取締役執行役員本部長＝登尾公彦氏、所在地・同）は福岡支店、広島支店を管轄し、西日本全域をカバーする。足元では工場・産業系案件が堅調に推移しており、暑熱対策や外気処理、空気環境改善を背景に工場向け空調需要が拡大する一方、ビル向けには水とヒートポンプ（HP）を活用した「自然派

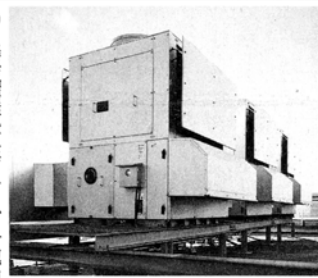
ハイグレード（H G）空調の提案も進めている。大阪営業本部の直近の業務状況について登尾本部長は「前期は工場用ゾーン空調機やツインサイクル形外調機、高性能エアハンなどの高付加価値製品を多数納入し、ユーザーの課題解決に貢献できた。世界情勢に不安定さがあるが、引き続き空気課題の解決に向けた提案営業に力を入れてい

く」と話す。同本部では今年、工場への直接営業を展開する「空調設備部」をより広義の「産業空調部」へ名称変更。工場オーナーへの直需営業やユーザーからの問い合わせ対応を強化。工場空調や生産設備関連案件、メンテナンス提案などを通じ、工場・産業分野で存在感を高めている。「現状は工場・産業系案件が多く、特に工場生産設備に関わる空調需要が目立っている」と語る。

関西エリアの市況については、大阪・関西万博関連や梅田周辺再開発案件などが一服感を迎えているとの認識を示す一方、ホテルやIR関連案件など今後の大型需要にも注目する。足元では工場向け案件の動きが活発で、暑熱対策や作業環境改善、省エネ対応を背景に、工場用ゾーン空調機や立形ルーフトップ外調機の引き合いが増加しているという。登尾本部長は「工場空調はここ4、5年で当社が特に力を入れてきた分野。工事込みで受注する案件も増えている」と語る。

特に産業分野では、単なる温度管理にとどまらず、除湿や外気活用を含めた空気環境改善ニーズが高まっている。同社では、湿度や空気質も含めた「空気調和」を重視し、品質管理や作業環境改善、省エネにつながる提案を進めている。「空気環境まで含めた差別化提案を進めていきたい」と語る。

また、同社が中長期的に訴求を進める「自然派H G空調」では、今後について登尾本部長は「工場・産業空調を中心にお客様のニーズに応えていくとともに、営業本部のみならず社を挙げて『自然派H G』空調の提案を進めていきたい」と展望を語る。そのうえで「冷温水から空冷、水冷HP式まで多彩な空調機を揃え、制御まで自社で完結できるのが当社の強み。その技術力や空気質提案を通じて当社空調思想の普及を図っていく」と力を込めた。



工場に納入された食品工場の外調機

また、同社が中長期的に訴求を進める「自然派H G空調」では、今後について登尾本部長は「工場・産業空調を中心にお客様のニーズに応えていくとともに、営業本部のみならず社を挙げて『自然派H G』空調の提案を進めていきたい」と展望を語る。そのうえで「冷温水から空冷、水冷HP式まで多彩な空調機を揃え、制御まで自社で完結できるのが当社の強み。その技術力や空気質提案を通じて当社空調思想の普及を図っていく」と力を込めた。